

平成 18 年度生涯学習・研修支援事業報告

深澤佳代子, 山本淳子, 山田正実, 櫻井信人, 野口裕子
 新潟県立看護大学看護研究交流センター生涯学習・研修部会

I. はじめに

一般公開講座として 3 講座, 専門公開講座として 5 講座 (臨地実習指導者養成講習会の専門公開講座を含む) を開講した。各講座の概要ならびに受講者数について報告する。

II. 平成 18 年度公開講座のテーマ・日程・受講者数

	講座名	開催日	受講数
一般公開講座	特別講演： 高齢化社会を乗り切る健康観を見直そう ～市民参加の時代の保健・医療・福祉の連携を考える～	9月16日(土)	57名
	エルダリー・スクール(1) スロー・エイジングへの挑戦(5講座)	9月2日(土), 9月9日(土) 9月30日(土), 10月7日(土) 10月14日(土)	105名 (延べ人数)
	エルダリー・スクール(2) 認知症サポーター100万人キャラバン ～キャラバン・メイト養成講座～(5講座)	10月21日(土), 10月28日(土) 11月11日(土), 11月18日(土) 12月9日(土)	201名 (延べ人数)
専門公開講座	職場で育つものと育たないもの	9月29日(金)	105名
	看護英会話セミナー 夏期セミナー	8月28日(月), 8月29日(火)	5名
	秋期セミナー	9月25日(月), 9月26日(火)	2名
	看護情報処理冬期セミナー	12月21日(木), 12月22日(金) 1月11日(木), 1月12日(金)	8名 11名
	新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 専門公開講座	8月21日(月)～10月13日(金)	50名
	看護実践能力の充実に向けて	8月21日(月)	60名
看護職者のメンタルヘルス	9月22日(金)	60名	
継続教育	10月6日(金)	56名	
新潟県の看護行政の動向	10月13日(金)	55名	
			延べ受講者数 775名

Ⅲ. 講座の概要

<一般公開講座>

1. 特別講演

日時：9月16日(土)13:30～15:30

講師：前信州大学教授，サン・ビジョン・グレイスフル下諏訪 丸地 信弘氏

概要：高齢化社会の〈保健・医療・福祉の連携〉を住民参加で推進するためには医療保険と介護保険の二人三脚の姿勢で新しい健康観を持つ必要がある。講師の50年にわたる医療・保健・福祉に関する教育研修の実践紹介を通して、受講者との対話形式でこの発想を深めた。これからの時代は人間が中心となる。人間の共通感覚は世界共通である。この視点に立ち戻り、物事を関連付けてとらえる力をつけてほしい。人と人との関わりは当たり前のことであるが、その当たり前のことができなくなっている。だからこそ、人との話しあいを通して、何がわかって何がわからないかを記録したり、わからないことは仲間に相談する、ということを繰り返していくことが大切である。講師の講演後、この人間関係の基本について講師と受講者との対話形式で行われた。

(運営担当：深澤・野口)

2. エルダリー・スクール(1)

スロー・エイジングへの挑戦

<講座のねらい>

男女ともに“人生80年”という言葉がほぼ可能となった今日、第一線を退いた後の20年余を健康で活力のある毎日を手に入れるためのからだ作り，あたま作り，そして病氣予防や介護予防に関する知識と戦略について参加者とともに学ぶことを目的とし，新潟工科大学とのジョイント企画3年目の講座である。

1) スローエイジングとアンチエイジング—生活習慣のチェックからはじめよう

日時：9月2日(土)13:30～15:30

講師：新潟県立看護大学 吉山直樹教授

概要：たとえば，だんだん老化や衰えを自覚していても十分に若返ることが可能であり，それこそ究極の介護予防である。その秘訣について話された。

2) 自立のために&負担の少ない介護のために—車椅子や福祉機器の選び方

日時：9月9日(土)13:30～15:30

講師：新潟工科大学 寺島正二郎助教授

概要：車椅子の話を中心に，福祉機器の選び方がパワーポイントでわかりやすく説明された。車椅子の選び方を間違えると姿勢の悪化，滑り落ちといった事故の危険性，症状の悪化や床ずれにつながることもあるため，参加者が実際に福祉機器や福祉用具を手にとったり展示してある色々な車椅子を使用し，さらに福祉用具の使い方を聞くという実践的な内容であった。車椅子に実際に座って車椅子の座面にかかる圧力を測定するという実演も行われ，座面にかかる圧力の状況からクッションの重要性や床ずれ予防について科学的に学ぶという試みもされた。身体に合った車椅子を実状に即して選択する方法を学ぶことができ，介護の実際の場面で非常に役立つ内容の講演であった。

3) 骨折を防いで快適な老後を一老人性骨粗鬆症対策

日時：9月30日(土)13:30～15:30

講師：新潟県立看護大学 中野正春教授

概要：骨粗鬆症自体に症状はないが、骨粗鬆症による骨折を起こすと様々な障害を起こしてくる。高齢者が骨粗鬆症による骨折を防ぎ快適な生活を送る秘訣について話された。

4) まちづくりとユニバーサルデザイン

日時：10月7日(土)13:30～15:30

講師：新潟工科大学 飯野秋成教授

概要：バリアフリー、ユニバーサルデザインをキーワードに、工科大の学生たちが提案した「まちの将来像」をもとに自分たちが住みやすい建物やまちとはどのようなものかを参加者とともに考えながら講義された。

5) 人間の唾液

日時：10月14日(土) 13:30～15:30

講師：新潟工科大学 斎藤英一教授

概要：唾液成分の実に 99.5%は水分であり、口腔内の洗浄に役立っている。一方、残りの 0.5%の固形成分は生体機能として重要な働きをしており、現在、研究が進んできている。今回は、この「0.5%の固形成分」に注目し、その構造と機能について解説された。唾液蛋白質分解酵素阻害剤であるシスタチンの役割から遺伝子、DNA まで専門的な話であった。唾液中の 0.5%の固形成分の役割として口腔の自浄作用やエナメル質再形成機能、外傷治癒促進作用、抗菌抗ウイルス作用、潤滑粘弾作用など様々な役割があることを学ぶことができ、参加者も熱心に聴講していた。

(運営担当：吉山、深澤、山本、山田、野口、櫻井)

3. エルダリー・スクール(2)

認知症サポーター100万人キャラバン～キャラバン・メイト養成講座～

<講座のねらい>

認知症の人々が尊厳を持って地域で暮らし続けるには、それを支える「地域づくり」に向けて地域の人々、職域や学校、その他団体など幅広く理解者や支援者の和を築くことが重要である。この講座では、認知症に関する正しい知識や対処の方法を理解し、人々に伝えることを通して認知症サポーターの輪づくりに活躍できるキャラバン・メイトの養成を目指すことをねらいとした。

1) 認知症の人を支えるとは

日時：10月21日(土)13:30～15:30

講師：新潟県立看護大学 中島紀恵子学長

概要：認知症サポーター100万人キャラバン・メイトの概要と取り組み、ならびに認知症の人への支援のあり方について解説された。

2) 認知症の基礎知識：症状、診断、治療

日時：10月28日(土)13:30～15:30

講師：日本社会事業大学大学院 今井幸充教授

概要：認知症の種類、診断および治療について最新の研究動向をふまえ分かりやすく解説された。

3) 認知症の人への対応のしかた

日時：11月11日(土)13:30～15:30

講師：新潟県立看護大学 北川公子教授

概要：認知症の人の気持ちを理解し、適切な対応のあり方を解説するとともに、グループワークを通し「こんなとき、どうしたらいいか」話された。

4) 認知症の人を支える仕組み

日時：11月18日(土)

講師：上越市職員

概要：認知症の人を支える社会資源やネットワークについて、上越市の実情に即し、内容や申し込み窓口などについて具体的に解説された。

5) グループワーク：認知症の人を地域で支えるには

日時：12月9日(土)

話題提供：呆け老人をかかえる家族の会新潟県支部代表 金子裕美子氏

コーディネーター：新潟県立看護大学 中島紀恵子学長

概要：上越市や居住地域での活動、キャラバン・メイトの役割やサポーター養成講座の運営などについて話し合われた。

(運営担当：中島, 北川)

< 専門公開講座 >

1. 職場で育つものと育たないもの

日時：9月29日(金)13:30～15:30

講師：国際医療福祉大学保健学部 中西睦子看護学科長

概要：ナースにはこれからどのような力が要求されるのだろうか。売り手市場の看護の世界に競争力が入ってきた時に、どう対応するのか。そのためにはこれから自分をどう育て、どう自分に投資していくことが必要なのだろうか。また、現場で伸びる力、伸びにくい力は何なのか、それを身につけるには何が必要なのか、など講師より多くの課題を投げかけられた。今後、看護集団にとって自己決定力を身につける必要性、時には医療チームとして共に働く医師集団を観察し、自分たちとの行動の差異を考えると、逃げずにチャンスを取る努力をすることの重要性など多くの示唆を与えられた講演だった。

(運営担当：深澤)

2. 看護英会話セミナー

< 講座のねらい >

最近の医療現場ではますます英語を使用する機会が増えてきている。そのような現状に対応できるように、初級から中級程度の英語を聞く・話す力を身に付けるための内容プログラムとした。また、実際に外国人講師と会話を行う機会を設けた。

日時：夏期 8月28日(月)～8月29日(火)10:00～15:10

秋期 9月25日(月)～9月26日(火)10:00～15:10

講師：新潟県立看護大学 中村博生助教授

新潟県立看護大学 山本淳子講師

外国人講師

概要：1日目は英語を聞く力・話す力，外来での会話・病棟での会話について学び，2日目は外国人によるレッスンおよび会話の実際を個別あるいはグループでレッスンを行った。
(運営担当：中村，山本)

4. 看護情報処理冬期セミナー

<講座のねらい>

初級から中級者が習熟の程度に応じて学習できることと，日常の看護業務の中で看護情報をより効果的に処理できることを目的とした。

日時：12月21日(木)～12月22日(金)10:30～16:10

1月11日(木)～1月12日(金)10:00～15:30

講師：新潟県立看護大学 橋本明浩助教授

概要：1日目はWindowsの基本操作，インターネットを使用したデータ収集，表計算の基本的な仕組み，統計分析とデータの見方・解釈，2日目は，より良いプレゼンテーションのしかたをめざし，構造型ワードプロセッシング，Excelを使用した統計的検定，2日間のまとめとして総合学習というプログラムで行われた。

(運営担当：橋本)

5. 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会

日時：8月21日(月)～10月13日(木)10:00～15:45

概要：新潟県下の病院・施設の臨床指導者育成を目的として平成15年より本学で企画・運営を行い4年目を迎えた。講義内容および開講時間数は教育に関する科目42時間，看護教育に関する科目42時間，実習指導に関する科目144時間，特別講義12時間の計240時間であり，今年度の受講者数は50名であった。講師は主に本学の教員が担当した。特別講義についてはその一部を一般公開したが，受講者からも大変好評であった。

1) 専門職への公開講座

(1) 看護実践能力の充実に向けて

日時：8月21日(月)13:30～15:30

講師：新潟県立看護大学 中島紀恵子学長

(2) 看護職のメンタルヘルス

日時：9月22日(金)13:30～15:30

講師：信州大学医学部保健学科 近藤浩子助教授

(3) 継続教育

日時：10月6日(金)13:30～15:30

講師：新潟大学医学部保健学科 尾崎フサ子教授

(4) 新潟県の看護行政の動向

日時：10月13日(金)13:30～15:30

講師：新潟県福祉保健部福祉保健課看護介護人材係 小山歌子副参事

(運営担当：深澤)

IV. おわりに

今年度の公開講座へは延べ 800 名弱の一般市民の方々や看護専門職の方々に参加していただいた。看護研究交流センターの生涯教育プログラムは「地域への貢献」、「地域とともに歩む大学」という本学の使命のひとつを形にしたもので、本学の開学以降、地域の方々の中に浸透し受け入れられ発展してきた。開講5年目の平成18年度はエルダリー・スクールを通し、地域の高齢者を支える人々への講座を新規に企画し、多くの方々の御参加を得ることができた。また、企画・運営を本学に移し4年目を迎えた新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会については、定数50名枠にも関わらず毎年希望者が増加し続けており、県下の各施設が看護学生への教育に対し熱心に取り組んで下さっている様子が見えてくる。

講座の企画・運営には、例年、中島学長をはじめ本学の教職員が関わり、力を注いできている。内容の企画や日程調整などに頭を悩ますこともあるが、多くの方々が本学看護研究交流センターの公開講座を認識し、御参加いただけることは、担当者としてはうれしい限りである。今後とも、参加された方々の御意見や要望を参考にし、地域の方々の求める「地域に根ざした」講座を開講していきたいと思う。